

(趣旨) 一人暮らし世帯等への基盤支援(見守り・買い物支援)を行うことで、一人暮らし世帯等が地域で安心・継続して暮らせる地域づくりを行う。

◆事業の3原則への取り組み

- ①基盤支援を必要とする人とそのニーズを把握する。
→訪問調査やマップ作成などで支援の対象者と地域の社会資源を把握する。
- ②基盤支援を必要とする人がもれなくカバーされる体制をつくる。
→生活課題を抱える人の把握、課題解決のための地域の体制整備を行う。
- ③それを支える安定的な地域の自主財源確保に取り組む。
→財源確保のための検討会を開催したり、他市町村の事例を参考にに取り組む。

(対象地区) 山国地区・今津校区を対象に事業を実施する。

中山間地域(過疎地域)

世帯数1,156 人口2,948

65歳以上人口1,284 (高齢化率43.6%) 高齢者単身世帯272 高齢者のみ世帯496

要援護者台帳登録者数 381

(H22.4.1現在)



山国地区

“源流の郷”やまくに福祉の会

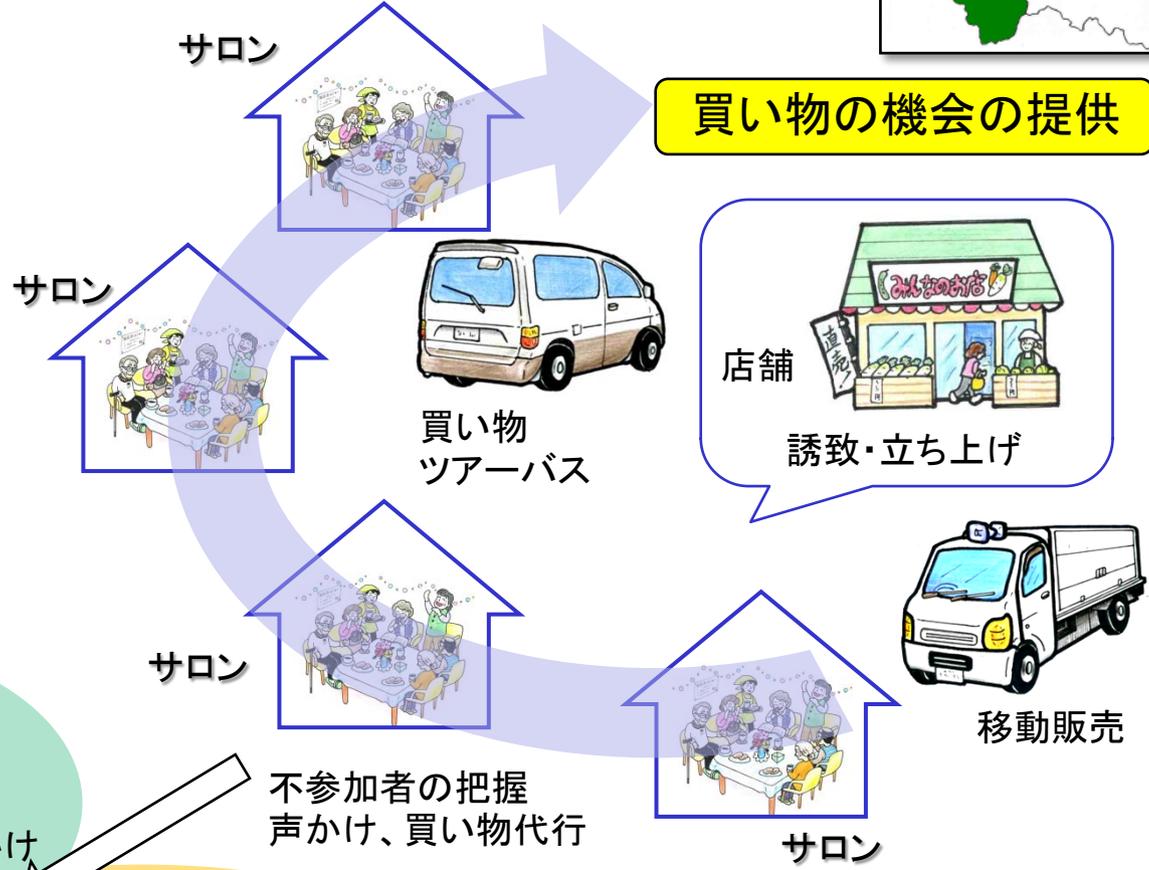
4地区の住民座談会を、1本の協議会に集約

※地域活動支援の主体(20名程度)
山国地区の自治委員・民生委員・老人会・婦人会・サロン等の代表者等から構成

- ◆地域情報・活動情報の提供
- ◆情報集約・課題抽出

↓
活動への反映

買い物の機会の提供



見守り体制を強化

自治会
地域住民の把握
地域情報の提供
行事等参加の呼びかけ

不参加者の把握
声かけ、買い物代行

老人会・婦人会
行事等参加の呼びかけ
戸別訪問活動
民生委員へのつなぎ

民生委員
要援護者の把握
(市より定期的に情報を提供し、台帳を整備)
相談・福祉サービスへのつなぎ

包括支援センター
個別訪問・相談



山国地区

アンケート調査・住民座談会で集約された課題



- ①参加しやすい場・機会づくり
- ②買い物・交通手段の基盤づくり
- ③孤立しない取り組み

“源流の郷”やまくに福祉の会では、
「課題①参加しやすい場・機会づくり」に向けて協議中です！



現在の集まりの場を分析

現在、山国地区にはどのような集まりの場があるのか、地図上で確認



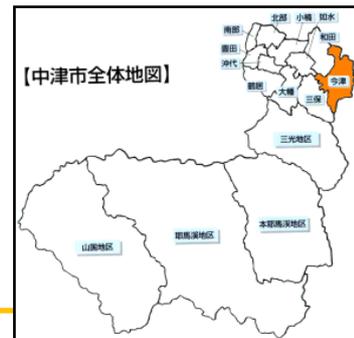
“参加しやすい場”とは？

「頻度」「場所」「実施主体」「参加者」「活動内容」「参加費」などについて、どういったものが“参加しやすい場”なのか、自分たちの住む地域ではどういった取り組みができるか話し合いました。
→話し合いをもとに、「場」づくりを行っていきます。

今津校区

郊外

世帯数1,852 人口4,232
65歳以上人口1,256 (高齢化率29.7%) 高齢者単身世帯332 高齢者のみ世帯597
要援護者台帳登録者数 1,091 (H22.4.1現在)



福祉の郷”いまづ”

※地域福祉ネットワーク協議会
今津校区の自治委員・民生委員・老人会・ボランティア団体の代表者等から構成

- ◆地域情報・活動情報の提供
- ◆情報集約・課題抽出

↓
活動への反映



ミニデイ
サロン

不参加者の把握
声かけ

現在の見守り体制を強化

包括支援センター
個別訪問・相談

自治会
地域住民の把握
地域情報の提供
行事等参加の呼びかけ

民生委員
要援護者の把握
(市より定期的に情報を提供し、
台帳を整備、更新)
訪問活動
相談・福祉サービスへのつなぎ

老人会・婦人会
行事等参加の呼びかけ
戸別訪問活動
民生委員へのつなぎ

自主防災組織
日常的な防災啓発
個別避難支援プラン作成

防災訓練等の実施により、非常時
に見守り体制が機能するかどうか
を検証し、体制の充実につなげる。



見守り体制の検証

福祉の郷”いまづ”では、防災・見守り体制の充実に向けて活動中です!



定期的に協議会を開催

今津校区の抱える課題や地域福祉活動の取り組み方針について話し合っています。



防災図上訓練

津波の発生を想定し、自治委員さんや民生委員さんが中心となって、要援護者の避難支援・安否確認などについて地図を用いた訓練を行いました。

→この訓練を、防災・見守り体制の見直しや避難支援計画の策定に役立てます。

